

# あらた同窓会会員名簿

令和5年6月現在

鹿児島大学農学部あらた同窓会

# あらた同窓会会員名簿



校 旗

令和5年6月現在

鹿児島大学農学部あらた同窓会



鹿児島大学全景



鹿児島大学農学部全景



建築中の鹿児島高等農林学校校舎（明治42年9月8日撮影）



鹿児島高等農林学校校舎前面



鹿児島大学農・獣医学部共通棟（農学部開学100周年時平成21年撮影）



鹿兒島高等農林学校講堂（左上は学章）



初代校長玉利喜造先生



鹿兒島高等農林学校時代の玉利池



現在の玉利池とあらた会館



鹿兒島大学農学部開学100周年記念祝賀会（平成21年11月23日）



鹿兒島大学農学部開学110周年記念ミ二式典

## 目 次

あらた同窓会名簿の発刊にあたって	(2)
あらた同窓会会長 藤 田 晋 輔	
ご挨拶	(3)
農学部長 寺 岡 行 雄	
学科・講座構成の推移	(4)
沿革	(6)
鹿児島高等農林学校校歌・第二寮歌・第四寮歌	(7)
あらた同窓会会則	(10)
あらた同窓会役員	(13)
賛助会員	
現賛助会員	3
旧賛助会員	5
正会員	
農学科	13
農学別科	36
農学専修科	38
林学科	41
林学選科	59
林学専修科	60
林学別科	60
養蚕学科	63
繊維農業科	66
蚕糸学科	67
養蚕選科	69
農芸化学科	73
獣医学科	93
農業電気学科	123
総合農学科	127
畜産学科	133
農業工学科	147
園芸学科	159
生物生産学科	169
生物資源化学科	203
生物環境学科	227
農業生産科学科	253
食料生命科学科	261
農林環境科学科	269
大学院農学研究科	275
大学院農林水産学研究科	313
専攻科	319
学生会員	325
索引	333
賛助広告・賛助金芳名録	巻末

## 凡 例

この名簿は、確認はがき等の送付により「令和5年5月」までに確認された事項を基準に編集しています。

- **漢 字** 常用漢字及び新字体を基本に掲載しています。
  - **配 列** 旧賛助会員は、離任順とし、会員は、卒業時姓の漢字50音順としています。  
頭文字が同字で、第1音が同じ場合は、原則としてまとめて掲載しています。
  - **氏 名** ( )内は、旧姓名としています。
  - **現住所** 分명한都市の都道府県名は省略し、学生の場合は親元の住所を掲載しています。
  - **勤務先** 学生の場合は、在校名を掲載しています。
- 名簿への掲載を希望されない方は、氏名を含めた全ての内容を掲載していません。

## あらた同窓会名簿の発刊にあたって



あらた同窓会会長

藤 田 晋 輔

わが母校の始祖、国立の高等教育機関として創設された鹿児島高等農林学校は、南方開発の使命を抱え、1908（明治41）年「あらたの地」に開学、第1回の入学宣誓式が挙行され、既に113年の歴史を刻みました。この間1944（昭和19）年には、鹿児島農林専門学校と改称されました。そして、1949（昭和24）年第2次世界大戦、太平洋戦争敗戦に伴う学制改革により、「鹿児島大学農学部」に引き継がれました。

1909（明治42）年開学以来、実に約20,000名を超える卒業生を輩出しています。多くの先輩諸氏は国内外の行政、研究、そして実業産業界において高い目標と使命感を持って、活躍されています。

これまでの多くの重鎮会長から、はからずも、このような歴史を有する母校「農学部あらた同窓会第7代会長」の重責を担うことになり、身の引き締まる思いを致しております。私は1962（昭和37）年林学科を卒業し、同年4月に京都大学大学院に入学・修了後、1964（昭和39）年島根大学（助手）、1969（昭和44）年静岡大学（助教授）、以降1980（昭和55）年には鹿児島大学（助教授）、平成2年教授として奉職し、爾来2004（平成16）年3月定年になるまで、鹿児島大学林科学生時代の国有林現場、そして奉職以降は文部省（現在の文部科学省）、建設省（現在の国土交通省）、農林水産省（特に林野庁）、加えて勤務しました各大学所在地の県庁林務部、関西や東海、東京地区の多くの木材産業界、加えて鹿児島県内の自治体や産業界等に在籍、在職されておいでの名前を記載出来ない程の多くの先輩諸氏に約42年間もの間大変お世話になりましたこと、ここに改めて謝意を表します。

ところで、鹿児島県出身の初代校長玉利喜造先生は、明治42年国策により「あらたの地」に創設、開学されたわが母校の整備充実と開学の思想に基づく挑戦すべき課題に情熱と心血を注がれました。中でも、当時の国策でもあった南方開発を見据えた地域の農林業を基軸とした地球規模の食糧事情や環境改善等の解明、展開のため果敢に挑戦する地として最適の場であったと考えています。明治期の創設、開学以来海外への展開を使命とした実践教育を受けた有能な卒業生諸氏は、開学の精神のもと各々の職域で枢要な職域、地位で実績を残されてきました。このような実践的歴史を引き継いだ現鹿児島大学農学部においても、数年前から創設期と類似した体験的な実験実習等が、近年では東南アジア地域においてフィールドでの教育も重視し、豊かな人間性、現場における実践力、優れた応用力、広い視野と国際性に通じる涵養の教育が行われています。国際的な時代背景が明治の創設期と全く異なりますが、日本政府のODA予算により運営されている独立行政法人国際協力機構（JAICA）による海外協力隊（一般、シニア）等を通じた諸先輩方の輝かしい実績と伝統を引き継ぐためにも、今後も先人的思想を組み込み、且つ実践的志向を所持した卒業生の輩出を期待しています。

これからも同窓会役員各位の御助力を戴きながら、運営に従事して参りたいと存じます。あらた同窓会会員各位におかれましても、「農学部あらた同窓会」および「鹿児島大学農学部」の発展のために、今後ともご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

## ご 挨拶



農学部長

寺 岡 行 雄

あらた同窓会の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より、同窓生の皆様から農学部学生及び教職員へのご支援を頂いておりますこと、厚くお礼申し上げます。この度、5年ぶりに「あらた同窓会名簿」が改訂・出版されると伺いご挨拶申し上げます。1908年の鹿児島高等農林学校設立以来、鹿児島大学農学部へと続く荒田のキャンパスで学ばれた、多くの皆様の足跡が同窓会名簿には刻まれており、この出版は大変喜ばしいものと思います。

さて、鹿児島大学は2004年（平成16年）に国立大学法人となり、2022年（令和4年）度からは第4期中期計画期間に入りました。減少し続けていた国からの運営費交付金が下げ止まりの傾向にあります。就職率や科学研究費補助金の獲得などによる大学間での成績の比較により、予算額が増減額する仕組みが取り入れられてきました。教員数が減少する中、学生の教育研究の質を落とさないよう、努力をしているところです。組織的な取り組みとしては、ICT化等による先進的スマート農畜林水産業を創出する人材や食の安全・品質保証・グローバル化に適應可能な人材の養成等、農学分野と水産学分野双方の高度な知識を有する人材養成に対応するため、2019年（平成31年）4月に大学院農学研究科と大学院水産学研究科の両研究科を統合し、大学院農林水産学研究科を発足させました。

先の同窓会名簿が出されてからの5年間にあった最も大きな出来事は、新型コロナウイルス感染症への対策としての教育研究環境の変化です。講義室や実験室、あるいは農場や演習林での授業が当たり前でしたが、2020年（令和2年）度からインターネットを利用したオンラインやオンデマンド授業が始まりました。研究室へ来るのも必要最小限度にとどめることが求められました。それ以来、教職員も不慣れたインターネットを通じた講義の実施に取り組み、学生諸君の努力の甲斐あって、ネットを通じた教育が成果を上げてまいりました。2021年（令和3年）度からは、徐々に出校して対面での授業の機会を増やしてまいりましたが、2022年（令和4年）度が終わる現在でもマスクを外すことができない状態です。学生たちの顔をしっかりと覚えることが難しくなっており、卒業してゆく学生と農学部あるいは先生方との関係が希薄になるのではないかと危惧しております。このような中、この同窓会名簿が、同窓生の皆様の繋がり証として、より一層の連携を深める大切な役割を果たしてくれるものと期待しております。

末尾になりますが、同窓生の皆様のますますのご健勝とご多幸を、ならびにあらた同窓会のご発展を心より祈念申し上げます。

## 学科・講座構成の推移

### ●平成2年改組前

学 科	講 座
農学科	作物学
	熱帯作物学
	育種学
	植物病理学
	害虫学
	農政学及び農業経済学
	農産物流通経済学
	農業経営学
林学科	造林学
	森林経理学
	林政学
	森林育種・保護学
	森林利用学及び林産製造学 森林土壌学及び砂防学
農芸化学科	生物化学及び栄養化学
	応用微生物学
	澱粉利用学
	農産化学工学
	土壌学
	肥料学
畜産学科	家畜繁殖学
	家畜育種学
	家畜管理学
	畜産化学
	畜産栄養学
	畜産製造学
農業工学科	農業機械学第一
	農業機械学第二
	農業物理学
	農業水文学
	農地工学
園芸学科	果樹園芸学
	蔬菜園芸学
	観賞園芸学
	青果保蔵学
獣医学科	家畜解剖学
	家畜生理学
	家畜薬理学
	家畜病理学
	家畜微生物学
	獣医公衆衛生
	家畜内科学
	家畜外科学
	家畜臨床繁殖学
	附属教育 研究施設

### ●平成28年改組前

学 科	講座・研究室		
生物生産学科	作物生産学 作物学 熱帯作物学 植物育種学 植物分子生物学		
	園芸生産学 果樹園芸学 蔬菜園芸学 観賞園芸学		
	病害虫制御学 植物病理学 害虫学		
	家畜生産学 家畜繁殖学 家畜育種学 家畜管理学		
	農業経営経済学 農業経済学 農業市場学 農業経営学		
	生物資源化学科	生命機能化学 生分子機能学 応用分子微生物学 応用糖質化学 生命高分子化学	
		食品機能化学 食品分子機能学 栄養生化学・飼料化学 食品化学	
		食糧生産化学 土壌科学 植物栄養・肥料学 青果保蔵学及び遺伝子制御学	
		生物環境学科	森林管理学 育林学 森林計画学 森林政策学 森林保護学
			地域資源環境学 木質資源利用学 砂防・森林水文学
環境システム学 農業環境システム学 食料環境システム学 環境情報システム学			
生産環境工学 利水工学 農地工学			
基礎獣医学 解剖学 生理学 薬理学			
獣医学科	病態・予防獣医学 病理学 寄生虫病学 微生物学 公衆衛生学		
	臨床獣医学 外科学 画像診断学 内科学 臨床病理学 産業動物獣医学 獣医繁殖学		
	先端獣医科学 新興感染症学 分子病理学 代謝内分泌学		
	附属教育研究施設	附属農場 附属演習林 附属動物病院 附属越境性動物疾病制御研究センター 附属焼酎・発酵学教育研究センター 焼酎製造学部門 醸造微生物学部門 発酵基礎科学部門 焼酎文化学部門	

### ●平成28年改組後

学 科	講座・研究室等		
農業生産科学科	応用植物科学 作物学 熱帯作物学 作物生態学 植物育種学 比較環境農学 果樹園芸学 蔬菜園芸学 観賞園芸学 害虫学 植物栽培・機能学(附属農場)		
	畜産科学 家畜繁殖学 家畜育種学 家畜管理学 食肉科学 栄養生化学・飼料化学 家畜生体機構学(附属農場)		
	食料農業経済学 農業経済学 農業市場学 農業経営学		
	食料生命科学科	食品機能科学 食品分子機能学 食品化学 生分子機能学 応用糖質化学 生命高分子化学	
		焼酎発酵・微生物科学 焼酎製造学 醸造微生物学 応用分子微生物学	
		食環境制御科学 土壌科学 植物病理学 植物生命工学 植物栄養・肥料学 食品保蔵学 食料環境システム学	
		農林環境科学科	森林科学 育林学 森林計画学 森林政策学 森林保護学 木質資源利用学 砂防・森林水文学 附属演習林
			地域環境システム学 森林計画学 木質資源利用学 砂防・森林水文学 附属演習林 農業環境システム学 環境情報システム学 利水工学 農地工学
	国際食料資源学 特別コース (平成27年4月から)		農学系サブコース
	附属教育研究施設		附属農場 附属演習林 附属焼酎・発酵学教育研究センター

※平成24年4月1日農学部獣医学科は共同獣医学部となりました。

●令和5年4月現在

学 科	講座・研究室等
農業生産科学科	応用植物科学コース 作物学 熱帯作物学 比較環境農学 植物育種学 果樹園芸学 蔬菜園芸学 観賞園芸学 害虫学 植物栽培・機能学（附属農場）
	畜産科学コース 家畜繁殖学 家畜育種学 家畜管理学 食肉科学 家畜生体機能学（附属農場） 栄養生化学・飼料化学
	食料農業経済学コース 農業経済学 農業市場学 農業経営学
食料生命科学科	食品機能科学コース 生分子機能学 応用糖質化学 生命高分子化学 食品分子機能学 食品化学
	食環境制御科学コース 食料環境システム学 植物病理学 植物生命工学 土壌科学 植物栄養・肥料学 食品保蔵学
	焼酎発酵・微生物科学コース 応用分子微生物学 醸造微生物学 焼酎製造学
農林環境科学科	森林科学コース 育林学 森林計画学 森林政策学 森林保護学 木質資源利用学 砂防・森林水文学 附属演習林
	地域環境システム学コース 森林計画学 木質資源利用学 砂防・森林水文学 附属演習林 農業環境システム学 環境情報システム学 利水工学 農地工学
	スマート農学コース （令和4年4月1日から）
国際食料資源学 特別コース （平成27年4月から）	農学系サブコース
附属教育研究施設	附属農場
	附属演習林
	附属焼酎・発酵学教育研究センター

# 沿 革

- 明治41.3 鹿児島高等農林学校設置（農学科、林学科）、学内農場設置
- 42.7 林園新設
- 12 高隈演習林新設、佐多演習林新設
- 大正元.11 種子島牧場新設（昭和43年3月 閉場）
- 5.7 唐湊果樹園新設
- 7.10 指宿植物試験場新設
- 9.2 養蚕学科新設（昭和38年4月 蚕糸学科 募集停止）
- 10.3 農芸化学科新設
- 昭和6.9 桜島溶岩実験場新設
- 14.4 獣医学科新設
- 16.8 附属家畜病院新設
- 19.4 鹿児島農林専門学校に改称
- 23.9 農業電気科新設（昭和26年3月 廃止）
- 24.5 鹿児島大学農学部設置（「国立学校設置法」昭和24年法律第150号）
- 29.4 総合農学科新設（昭和38年4月 募集停止）  
唐湊実験林に名称変更
- 33.4 垂水貯木場新設
- 34.4 学内実験苗畑新設
- 38.4 畜産学科・農業工学科新設
- 41.4 大学院農業研究科修士課程設置
- 43.4 入来牧場新設
- 44.4 園芸学科新設
- 59.4 獣医学科6年制に移行
- 63.4 鹿児島大学大学院連合農学研究科（後期3年だけの博士課程）設置
- 平成2.4 学科（獣医学科を除く）改組（生物生産学科、生物資源化学科、生物環境学科）  
山口大学大学院連合獣医学研究科（4年の博士課程）構成大学
- 3.4 垂水育苗実験地に名称変更
- 6.4 大学院農学研究科修士課程改組
- 9.4 学科再編（生物生産学科、生物資源化学科、生物環境学科）
- 12.4 唐湊林園、垂水実験地、実験苗畑に名称変更
- 13.4 大学院農学研究科修士課程再編
- 16.4 国立大学法人 鹿児島大学となる。
- 17.4 動物病院に改称
- 18.4 獣医学科改組  
焼酎学講座（寄附講座）設置
- 20.5 農学部建物改修事業終了（主要5建物）
- 21.11 農学部開学100周年記念式典を挙行
- 22.3 農学部附属演習林開山100周年記念式典を挙行
- 23.4 附属焼酎・発酵学教育研究センター新設、附属越境性動物疾病制御研究センター（TAD）新設
- 24.4 共同獣医学部設置
- 27.4 農水連携国際食料資源学特別コース（農学系サブコース）新設
- 28.4 学科改組（農業生産科学科、食料生命科学科、農林環境科学科）
- 29.3 農学部獣医学科最後の卒業
- 31.4 大学院農林水産学研究科修士課程新設（農学研究科修士課程廃止）

# 鹿児島高等農林学校校歌

明治44年制定 瀧野旭子 作詞  
村岡重任 作曲



ミードリ シタタル ナンヨウ ノ テンチハ チカシー キミシル ヤ



イチイノ ミーズヲ ヘダテテハ コーザン パンリーキワミナ キ



チーイハ ナダタル キウシウ ノ ゲイシニ タチタル ワガコウシャー

## 鹿児島高等農林学校校歌

- |  |   |   |   |   |  |   |
|--|---|---|---|---|--|---|
| <p>七、<br/>瑞穂の国はいや栄え<br/>富国の船は纜をとき<br/>いざやはげまん諸共に</p> | <p>六、<br/>雲に聳ゆる高千穂は<br/>海門、鶴城、桜島、<br/>跡をしのべばここぞこれ</p> | <p>五、<br/>紅灯緑酒よそにして<br/>我等も舟子の一人ぞと<br/>四方の景色を眺むれば</p> | <p>四、<br/>醜胡斫る剣おびざるも<br/>棟梁の材を作るとき<br/>植えし小苗木程もなく</p> | <p>三、<br/>青嵐花の跡訪ひて<br/>流汗玉の実を結び<br/>金果黄禾のうづ高く</p> | <p>二、<br/>赫たる聖旨かしこみて<br/>校風校規永へに<br/>天地化育の理をさと</p> | <p>一、<br/>緑したたる南洋の<br/>一葦の水を隔てては<br/>地位は名だたる九州の</p> |
| <p>水手数えて五千萬<br/>北斗を背に舵とりて<br/>皇の御陵威をたたえつつ</p>        | <p>群山之を仰ぐこと<br/>皇祖の威靈英雄の<br/>嗚呼九州の一霊地</p>             | <p>健穩敢為ひたすらに<br/>斧とり鋏を杖つきて<br/>萬感いかで湧かざらん</p>         | <p>金剛の斧は腕にあり<br/>仰ぎて見よや轡岳に<br/>山と茂りて国富ます</p>          | <p>夏去り秋の来る時は<br/>やがて千草のとり入れに<br/>神やえまさん豊受の</p>    | <p>学の主に導かれ<br/>胡蝶頰伽を伴として<br/>心は清し山桜</p>            | <p>天地は近し君知るや<br/>江山万里きはみなき<br/>麿市に建ちたる我が校舎</p>      |

## 第 二 寮 歌

篠 崎 勲 作詞  
北 村 泰 三 作曲  
(大正十一年作)



アアハタ トセノーハルナリキ カンランナヤミー



チルユメ ニ ハナノカ オリノーアトトヒテ



ミツノナ ガルルークニタヅネ イタメルアシノー



ハニモニ シ ソウラウノミラー ハコビキヌ

### 対岳寮第二寮歌

- |  |   |
|--|---|
| <p>三、異国の花に夢見ぬる<br/>牧守る人に幸あれど<br/>ああ野に山に雨露の夜の<br/>栄華嘆き人は去り<br/>偽り多き人の世に<br/>嵐の中の人々よ</p> | <p>一、嗚呼廿年の春なりき<br/>橄欖悩み散る夢に<br/>花の香りの跡訪いて<br/>蜜の流れる国尋ね<br/>痛める葦の葉にもにし<br/>蹠跟の身を運び来ぬ</p> <p>二、友よ珊瑚の鞭挙げて<br/>迷える羊追いゆかん<br/>暮鐘はゆらぎ陽は落ちて<br/>南の国に秋更けぬ<br/>友よ落葉の森陰に<br/>遠き命を思はずや</p> <p>四、月の杯色あせて<br/>銀泥花に恨みあり<br/>紫とかす夕辺に<br/>哀嘆尽きぬ若人よ<br/>暫しレモンの花陰に<br/>南の国を讃えなん</p> |
|--|---|

# 第四寮歌

中村壽夫 作詞  
 合谷春人 作曲  
 大正15年11月 作

余り速からずどっしりと



クロシオキシニー ハナトサク ミヨナンカイノ



アサボラケ クモコンジーキニ ヒカリミチ



ヤマムラサーキニ アケントス キケラクムーカシ



ヒラハキシシー シーマノツタヘラ キーミシルヤ

## 対岳寮第四寮歌

一、黒潮岸に花と咲く

見よ南海の朝ぼらけ

雲金色に光満ち

山紫に明けんとす

聞けらく昔火を吐きし

鳥の伝えを君知るや

四、荒田の園に憩うこの

今廿年の春に会い

偽り多き人の世の

行路の難を思うとき

聞け黎明の丘に鳴る

鐘警世の響きあり

二、紫原に沈む陽の

赤きに寄するおもいあり

ああ故郷よ薩南の

野に青雲を仰ぐとき

心は同じ若人の

微笑にかくす涙かな

五、星霜移り幾百の

夢にし通う自治の寮

歴史と共に名は古れど

花永劫の香に匂う

ああ恵まれし青春を

友よ一夜を歌はづや

三、緑の国に尋ね得し

胸にはつきぬ泉あり

溢るままに玲瓏の

月にうそぶきさまよえば

榕樹の梢風見えて

銀葉騒ぐ磯の夕

歌はづや

# あらた同窓会会則

## 第 1 章 総 則

(名称)

第 1 条 本会は、鹿児島大学農学部あらた同窓会（通称：あらた同窓会）と称する。

(目的)

第 2 条 本会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、農学部の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。

- (1) 会報及び会員名簿の発行
- (2) 農学部との連携及び協力
- (3) その他必要と認めた事項

(支部)

第 4 条 本会は、支部を必要な地に置くことができる。

## 第 2 章 会 員

(会員)

第 5 条 本会は、次に掲げる正会員、学生会員及び賛助会員をもって組織する。

正会員

- 鹿児島高等農林学校卒業生
- 鹿児島農林専門学校卒業生
- 鹿児島大学農学部卒業生
- 鹿児島大学大学院農学研究科修了者

学生会員

- 農学部及び大学院農学研究科に在籍する学生

賛助会員

- 現賛助会員（現職教員）
- 旧賛助会員（退職教員）

2 会員は、住所等に異動が生じた場合、その都度事務局に連絡するものとする。

## 第 3 章 役 員 等

(役員)

第 6 条 本会に次の役員を置く。

- |                |     |
|----------------|-----|
| (1) 会長         | 1 名 |
| (2) 常任副会長      | 1 名 |
| (3) 副会長        | 3 名 |
| (4) 評議員        | 若干名 |
| (5) 監事         | 3 名 |
| (6) 常任幹事及び幹事   | 若干名 |
| (7) その他会長が認めた者 |     |

(役員を選任)

- 第 7 条 会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事は、総会において選任する。
- 2 評議員は、前項の他に各地域支部支部長、農学部副学部長及び学科長、並びに鹿児島支部幹事をもってこの任に当てる。
  - 3 幹事は、農学部の各講座から推薦された者をもってこの任に当て、その中から庶務、会計、会報および名簿担当の常任幹事を互選する。

(役員の仕事)

- 第 8 条 会長は本会を代表して会務を総理する。
- 2 常任副会長は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
  - 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
  - 4 評議員は、総会及び評議員会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
  - 5 監事は会計の執行状況の監査を行う。
  - 6 常任幹事及び幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項について協議を行う。

(役員の仕事)

- 第 9 条 総会で選任された役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員を生じた場合の補欠の仕事は前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

- 第 10 条 本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。
- 2 名誉会長は会長が委嘱する。
  - 3 農学部長は本会の顧問とする。
  - 4 名誉会長及び顧問は、会議に出席し、意見を述べることができる。

## 第 4 章 会 議

(会議)

- 第 11 条 本会の会議は、総会、評議員会及び幹事会とする。

(総会)

- 第 12 条 総会は、第5条第1項及び第10条に掲げる者をもって組織する。
- 2 総会は、次に掲げる事項を審議する。
    - (1) 役員の仕事に関する事項
    - (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
    - (3) 予算及び決算に関する事項
    - (4) 会則の改廃に関する事項
    - (5) その他会長が必要と認めた事項
  - 3 総会は、会計年度開始から2ヶ月内に会長が招集する。
  - 4 総会の議長は出席者の中から選出する。
  - 5 議事は出席者の過半数で決するが、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(臨時総会)

- 第 13 条 臨時総会は、会長が必要と認める場合に開催できる。
- 2 臨時総会の議長は選出並びに議決は前条の規定によるものとする。

(評議員会)

- 第 14 条 評議員会は、会長、常任副会長、副会長及び評議員をもって組織する。
- 2 評議員会は、次に掲げる事項を審議する。
    - (1) 総会に付議すべき事項
    - (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

- 第 15 条 幹事会は、常任副会長、常任幹事及び幹事をもって組織する。
- 2 幹事会は、次に掲げる事項を協議する。
    - (1) 総会及び評議員会に付議する議案書の作成
    - (2) 本会が行う業務の具体的執行計画等

## 第 5 章 会 計

(経費)

- 第 16 条 本会の経費は、正会員及び現賛助会員の会費、学生会員の入会金及び会費、寄付金等をもって充てる。
- 2 正会員及び現賛助会員は、年会費として2,000円を納付する。
  - 3 学生会員は、入会金及び在学中の会費として、入学時に、10,000円を納付する。
  - 4 年齢が満80歳に達した会員は会費納付を免除する。

(会計年度)

- 第 17 条 本会の会計年度は、10月1日から翌年9月30日までとする。

(監査)

- 第 18 条 監事は、会計年度ごとの事業実績並びに会計の執行について監査を行い、その結果を会長に報告する。

## 第 6 章 事務局等

- 第 19 条 本会の事務を処理するために事務局を置く。
- 2 事務局は鹿児島大学農学部あらた会館内に置く。

(雑則)

- 第 20 条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 本会則は、昭和28年12月12日より施行する。  
本会則は、昭和53年11月23日より改訂施行する。  
本会則は、昭和60年11月23日より改訂施行する。  
本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。  
本会則は、昭和62年11月23日より改訂施行する。  
本会則は、平成12年11月23日より改訂施行する。  
本会則は、平成23年11月23日より改訂施行する。

覚 書

- 1 過去に終身会費を納付した終身会員は年会費の納付を免除する。
- 2 あらた同窓会功労者表彰は、2009年を起点として、5年毎に行う。